





2022年5月10日 JST新技術説明会

# 海洋生物発光システムを用いた 新規発光材料の開発

### 電気通信大学 研究設備センター 特任助教 北田 昇雄

1







- 海洋発光生物(オワンクラゲ等)の発光システムを応用した 新規発光材料(セレンテラジン類縁体)の開発
- 通常青色発光を示すセレンテラジンを
   セレンテラジン類縁体によって多色化を達成
   特願2020-040703
   「生物発光酵素の長波長発光基質」
   牧 昌次郎、北田 昇雄、金 誠培
- ・構造改変による発光強度の低下を最小限に抑えた
  - セレンテラジン類縁体の開発に成功

特願2022-030488

「新規セレンテラジン誘導体」

牧 昌次郎、北田 昇雄、金 誠培







ホタル

ホタルルシフェリン

 $\lambda_{\rm bl}$  = 560 nm

HO

COOH

(1) On the beach, http://www.jaxshells.org,(2) NOAA Photo library, http://www.photolib.noaa.gov



オワンクラゲ



発光エビ(2)



ホタルルシフェリン、セレンテラジンは様々な分野で応用されている。

ウミシイタケ(1)







#### ホタル生物発光材料

#### 牧研究室で開発された ホタル生物発光を応用した近赤外発光材料









乳がん原発巣 (19週後)を摘出 1週間後に イメージング

**Protocol** Rag 2-/- マウス ♀, 週 齡;10 週, 基質投与5分後に撮影

乳がん原発巣









7

seMpai LH, 47.1 mM 127 uL 60 mM 100 uL

ホタル生物発光で十分?

Nakayama J., et. al., Int J Mol Sci., 2020; 21; 7896

×10 0.6



#### 海洋生物発光の利点

#### ホタル発光系と比較して、海洋生物発光系は

酵素反応速度が大きい
 多様な発光酵素が存在
 発光酵素が小さい

酵素の分子量 FLuc:ホタル RLuc:ウミシイタケ NanoLuc:発光エビ GLuc:カイアシ



ホタルルシフェラーゼよりも 小さい ➡応用の幅が広い



Shimomura, O. In *The fireflies and luminous insects*. *Bioluminescence: Chemical Principles and Methods, rev. Ed.*; World Scientific: Singapore, 2012; p 349.



#### 海洋生物発光の課題と本研究の目的

- 1. 発光色が限定的(青から緑)
   →セレンテラジンの構造改変で
   発光波長制御を目指す
- 2. セレンテラジン類縁体の発光強度が著しく低下 →構造活性相関研究で 発光強度の制御を目指す





#### ロ酵素特異性かつ多色発光を示す人工発光基質の開発

口高強度かつ波長制御可能な人工発光基質の開発



✓ C2位、C6位、C8位が構造改変可能な部位
 ✓ C2位の構造は固定

✓ C6位、C8位の構造改変を行う

セレンテラジン









S. Tamaki, et. al., Sci. Rep., **11**(1), 1-10 (2021)





2a–d

n=0-3



**1a–d** n=0–3

**3**a







**3b 3c DTZ** 特願2020-040703「生物発光酵素の長波長発光基質」牧 昌次郎、北田 昇雄、金 誠培



## 本研究の目的:多様な基質と酵素の掛け合わせ

# in vivoイメージングに向け セレンテラジン類縁体×酵素で多色化を目指す



# それぞれ組み合わせて発光特性の評価

◆ 発光スペクトルの測定
 ◆ 細胞での発光測定
 ◆ 酵素の選択性の評価



1b

-1d

600

600



Condition:

100 µM CTZ analogues in HEPES buffer 90 µL 0.01 mg/mL RLuc 10 μL ATTO-1850 LumiFL Spectrocapture Slit width : 0.25 mm Exposure time: 60 s



Normalized BL intensity

1

400

1

0

400

**—**1a

1c

500

500

Normalized BL intensity



オレフィンを伸長するごとに長波長発光した。



#### Alucでの最長発光波長583 nmを記録





#### 3a,3d / NanoLucは高輝度で発光した。





Condition:

100  $\mu$ M CTZ analogues in HEPES buffer 30  $\mu$ L mda-mb-231 Live cells IVIS Spectrum Exposure time : 300 s



**3a,DTZ** ➡ 生細胞でNanoLuc に特異的に発光した。



#### 多色化セレンテラジンまとめ



- •Rluc, Alucにて多色化に成功 (ca. 450-650 nm)
- Rlucにて664 nmの最長波長を示した
- Alucにて583 nmの最長波長を示した

NanoLucで特異的に発光
1a-d, 2a-dとの直交性が見られた



しかし、発光強度の減衰が著しく 課題も残る





# ✓ 酵素特異性かつ多色発光を示す人工発光基質の開発

#### □ 高強度かつ波長制御可能な人工発光基質の開発



✓ C2位、C6位、C8位が構造改変可能な部位
 ✓ C2位の構造は固定

✓ C6位、C8位の構造改変を行う















<u>C8位にS原子を導入し、C6位、C8位に置換基を導入した類縁体を合成</u>

特願2022-030488「新規セレンテラジン誘導体」牧 昌次郎、北田 昇雄、金 誠培

#### S-Seriesの発光評価

Lysate Cells

新技術説明会

Exposure time; 0.5, 0.75 s CTZ analogues in PBS buffer 100 μM



#### <u>類縁体S5はALucとNanoLucに対して高強度で発光を示す</u>





600

Wavelength / nm

500

700

800

0.6

0.4

0.2

0

400



S原子により共役系が拡張され、約40nmの長波長シフト



#### S-Seriesの総括

S-Series 発光結果



- ・C8位にS原子を導入した類縁体の合成に成功
- ・置換基の制御により酵素特異的な類縁体を開発
- ・セレンテラジン類縁体で天然基質と同等の発光強度を達成 ・nCTZ等の発光基質より約40 nmの長波長化





本研究の総括





実際にイメージングに 利用してみないと 実用化までが困難



本技術の応用と連携

・多彩な発光色を利用した新技術

・強い発光輝度を利用した新技術

新規発光材料の 新たな活用方法を探索中

etc...

多彩な応用・連携を募集しております 技術に関するご相談もお受けいたします





# 国立大学法人電気通信大学 産学官連携センター 産学官連携ワンストップサービス

# TEL 042-443-5871FAX 042-443-5725E-mail onestop@sangaku.uec.ac.jp







#### 電気通信大学大学院 基盤理工学専攻 牧 昌次郎 教授 木山 正啓 博士 神谷 弦汰 様(博士課程) 玉城 翔太 様 及び牧研究室の学生・卒業生



#### 產業技術総合研究所 環境管理研究部門 金 誠培 主任研究員

テクニカルスタッフ 藤井 理香 研究員